

平成 30 年度中学校武道授業（相撲）指導法研究事業



平成 30 年度中学校武道授業（相撲）指導法研究事業（主催＝日本武道館・日本相撲連盟、後援＝スポーツ庁）は 1 月 19～20 日の 2 日間、日本武道館大会議室で研究者 7 名が参加して行われた。本事業は中学校武道授業の充実に向け、指導内容、指導法等について、教育効果の上がる武道・相撲授業の実施を目的とする指導法研究会である。今回は昨年 11 月に開催された全国相撲指導者研修会の成果と課題を中心に検討協議が行われた。

■1 日目（1 月 19 日）

開講式では、安井和男日本相撲連盟専務理事が挨拶に立ち、「最近スポーツ界等でインテグリティという言葉が聞きますが、武道には、昔から正々堂々の武道精神が根底にあります。我々には、中学校授業の中で、相撲を通して武道精神を子供たちに伝えていくという使命があります。しっかりとご討議いただき、実りある研究事業としたい」と挨拶を述べた。

続いて、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が「今年の武道振興大会において、武道議員連盟、日本武道協議会、日本武道館が政府に要請する決議の案文をお配りしました。第一項に、『新学習指導要領の

完全実施に向け、武道全九種目が幅広く実施されるよう、外部指導者を活用した複数種目実施のモデル事業を全国各ブロックで行うこと。そのために必要な措置を講じること』と盛り込みました。新学習指導要領には武道 9 種目が並列明記されます。中学校体育授業の実施率は柔道・剣道が約 9 割ですが、複数種目実施のモデル校の計画が進めば、各種目がブロックごとに増えていくことになります。成功例を積み上げて、モデル校のよい報告が広がり、実施率が多様化していく。そこが日本武道館、日本武道協議会のねらいです。大相撲中継の視聴率は非常に高く、相撲は情報の面においては、比較優位にあります。教育現場で理解を広げ、実施校を増やしていくことが大事です。相撲は正々堂々、身体をぶつけ合って逃げも隠れもしない、他の種目にはない醍醐味があります。本事業を通じて、次年度の展開をしっかりと練られることをお願いしたい」と述べた。

開講式に続いて、村田安啓研究者より、昨年 11 月の全国指導者研修会の参加者アンケート結果について報告され、次年度の研修会に向け、日程、講義内容、実技研修の進め方等の協議が行われた。

はじめに、座長の桑森真介研究者が「アンケートで



次年度の全国指導者研修会へ向けに活発に意見交換が行われた

は、講義、実技研修、実践研究について、9割以上が『役に立った』を選択している。基本方針としては、次年度も踏襲したいと考えているが、よりよい研修会となるよう、積極的に先生方の意見を出していただきたい」と述べた。

アンケートの中で、今後の研修会に期待することの問いには、「研修会に参加した指導者が、実際に学校の授業で実践している事例があれば話を聞いてみたい」「地方における活性化対策の情報を知りたい」「より多くの教員に開催告知をしてほしい」などの意見があった。

参加者の要望に対し、中学校相撲授業の充実につながるものについては、本事業で検討し、研修内容を改善していくという基本方針が確認され、綿密な話し合いが行われた。

■2日目(1月20日)

はじめに前日の討議内容のまとめが行われた。主な内容は以下のとおり。

- ①実技研修では、武道の伝統的な考え方、所作をより丁寧に指導する。
- ②審判法では、特に礼法の指導を徹底する。
- ③研修会の趣旨を再確認。相撲未経験の保健体育の先生に対する指導法とあわせて、将来の外部指導者を育てることに注力する。
- ④開催告知については、日本相撲連盟のホームページ、中学生大会のプログラムに開催案内を掲載する。
- ⑤班別討議の時間を増やして、各地の現状について、情報共有を図る。多くの人が意見を出せるように工夫する。

午後は、参加者からの「学年が上がるにつれていかに授業内容をレベルアップするか？」という質問に対し、各研究者から意見が出された。

堀内弥研究者は「投げ技をやりたいという生徒もいるが、ケガの心配がある。投げ技の指導をレベルア

ップと言えるのかという疑問もある」と述べた。

上村裕一^{かみむら}研究者は「学校授業の基本は押しと寄り。体の使い方を指導する際、柔道の打ち込みのようなものを相撲に取り入れることはできないだろうか」と述べた。

桑森研究者が「技能的な指導は授業では必要ないのではないかと。相撲の基本は中腰で前に出ること。安全面を考慮し、中学生には基本の大切さを学んでほしい」と結んだ。

最後に各研究者が2日間の研究事業の感想を述べた。閉講式では安井日本相撲連盟常務理事が挨拶を行い、全日程が終了した。

◎浦嶋三郎研究者

次年度の全国研修会に向けて、先生方の意見を集約し、準備を進めていきたい。

◎安藤均研究者

全国研修会を振り返り、参加者の意見を大切に考えながら、意見交換をすることができた。今後も相撲の授業実践校が増えることを望むとともに、授業での相撲指導法について、研究を深めていきたい。

◎堀内研究者

各地の研修会に参加するたび、授業に相撲を採用している学校が増えているという報告が入ってくる。本研究事業、全国研修会の成果が実っているという実感がわき、非常にうれしいことである。

◎上村研究者

今年度から日本相撲連盟の中学校相撲授業指導法研究委員となり、気持ちを新たに臨んだ。先生方の意見を聞いて、柔軟な考え方が必要だと感じた。

◎村田研究者

参加者アンケートを深く掘り下げて協議を行い、有意義な研究事業となった。学校教員の指導力向上とともに外部指導者の養成ということも意識して、次年度の準備を進めていきたい。



開講式後、全員で記念撮影